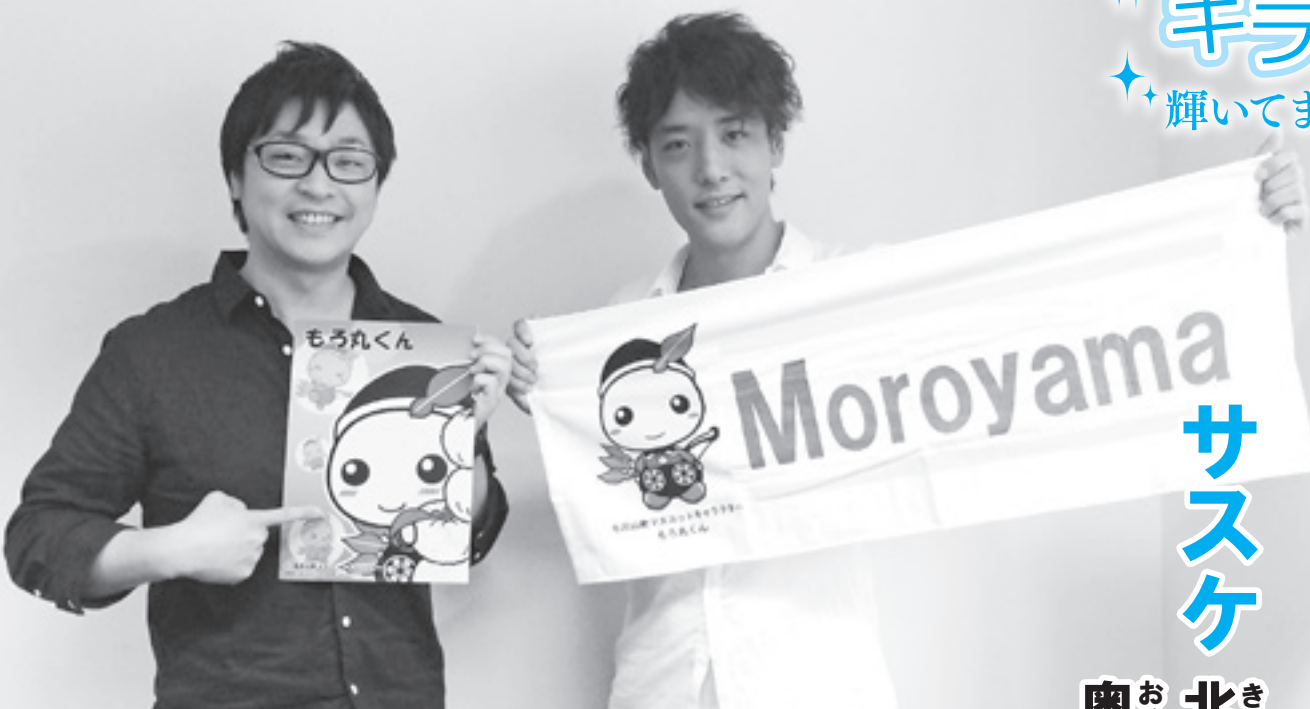


心を掴む、切ない歌詞とメロディーを再び全国へ  
楽曲の根底には毛呂山の風景



サスケ

きたしみず 北清水 雄太さん  
ゆうた

おくやま 奥山 裕次さん  
ゆうじ

■もう一度、ゼロから

2004年に『青いベンチ』の大ヒットで全国にその名が知れ渡った男性デュオ『サスケ』。2009年に惜しまれながら解散し、2人は、それぞれの道を行く。そして2014年再結成を発表。サスケが戻ってきた。

再結成のきっかけを尋ねると、北清水さんは、「裕次とは、元々毛呂山高校の同級生で付き合いの長い友達でもあるので、解散後もずっと連絡を取っていました。去年、『来年は青いベンチから10年だね。記念にライブでもやる?』と話がでて、最初は一度きりのイベントのように考えていたのが、話が進むうちに熱いものがこみ上げてきて、もう一度ゼロから夢を追いかけよう……と話す。

サスケの楽曲は、解散後もカバーや合唱曲として多くの人に愛さ

れ続けた。たくさんの人に歌い継いでもらった曲を、もう一度本気で届けたい。その想いが、サスケの再始動に繋がった。

■青春を過ごした毛呂山町

サスケの楽曲は、歌詞の切なさ、ノスタルジックな歌声が聞く人の心に響く。高校卒業までを過ごした毛呂山町について尋ねると、「故郷と聞いたとき、やはり毛呂山町の風景が浮かんできます。子どもころ遊んだ公園、学校。大宮のストリートに出る前は、出雲伊波比神社で練習しました。どこか懐かしさが残っている町です。帰るとホッとする。」と振り返る奥山さん。今でも実家のある毛呂山町にはよく帰ってくるといふ。

「懐かしさ、切なさ、郷愁感」といふのは、サスケにとって大切なテーマです。そういう意味で、青春を過ごした毛呂山町は、僕たちの曲の根底にあります。青いベンチにも、当時の仲間や好きだった子のことが反映されている。ベンチの色も、当時の越生線のホームからインスピレーションを得ているかも(笑)。同じ風景を共有する毛呂山の人に、ぜひサスケの曲に触れて、感じて

欲しいです」と北清水さんは語る。

■毛呂山町の星になる

今後の活動について、奥山さんは、「解散前、全国各地で歌いたいと思っていただけ、まだ行ってない場所がたくさんあるんです。全国どこへ行って、お客さんが待っていてくれる状況をつくってきたい」と話し、北清水さんは、「通り行く人に歌を届けたいという思いは、今もすごく強いです。また路上もやりたい」と、精力的にライブ活動を行っていく予定だ。

また、奥山さんは、「同じ風景を共有しているからこそ、毛呂山町の人に応援して欲しいと思っています。もっと皆さんにサスケを知って欲しいし、町でみかけたらぜひ声をかけてください」と、笑顔で呼びかける。

毛呂山町の星として、再始動したサスケの活躍に期待したい。

■サスケ



川角中学校出身の北清水雄太さん(右)、毛呂山中学校出身の奥山裕次さん(左)による男性デュオ。共に旧県立毛呂山高校卒業。2000年から大宮のストリートを中心にライブ活動を行う。2004年、インディーズで発売された『青いベンチ』がロコミをきっかけに30万枚の大ヒット。2009年の解散後も楽曲は愛され続け、「青いベンチ」から10周年を迎える2014年、再結成。ニューアルバムを発表し、今秋ライブツアーが開催される。

オフィシャルサイト <http://sa-su-ke.com/>